

POLE

北海道ポーランド文化協会会誌「ポーレ」

第29号 1995. 1. 12.

発行

北海道ポーランド文化協会

〒060 札幌市中央区南2西2

河合楽器製作所北海道支社内

TEL 011-231-8661

FAX 011-221-4936

第八回総会・懇親会 開催される

協会の創立七年を経て、第八回目の総会が去る十一月二十九日（火）に、新装なったすみれホテルで開催された。今村会長から挨拶があったのち、灰谷運営委員の司会で議事が進められ、前年度の事業および決算報告、新年度の事業計画と予算案が別記の通り承認された。ついで協会の創設以来七年間にわたり会長を務めていただいた今村先生の退任と、谷本副会長の会長就任が運営委員会から提案され、あわせて会則に「第十一条 本会に顧問を置くことができる。顧問は総会において選任され、運営委員会に助言を与えることができる」とを加える会則変更と、今村前会長の顧問就任が提案され、一括承認された。今村先生への記念品贈呈と谷本副会長の挨拶があつて総会を終了した。

総会後、直ちに副会長遠藤道子先生が北海道文化賞をご受賞になったことのお祝いの催しが行われた。谷本副会長からのお祝いのことは、花束贈呈と遠藤先生のお話し、そして本田真紀子さんのピアノ演奏（ショパンのワルツ作品三四の一と幻想即興曲）があつた。

つづいて、立食形式の懇親会にうつりなごやかなひとときを過ごした。特に今回は栗原成郎、大和田りえ子両氏のポーランド訪問の報告とそれに続く飛び入りのポーランドみやげ話で雰囲気盛り上がった。参加者は合計四十五名であつた。

【一九九三年度事業報告】

主催事業として

◇第二一回例会 八月十九日 講演会「社会主義崩壊後ポーランドの生活世界」北海道大学経済学部教授 吉野悦雄氏。

◇ポーランド訪問旅行 九月五日から十一日間 ウッチ、クラコフ、オシフィエンチム、ザコパネ、チェンストホバ、ワルシャワを訪問、参加者十二名。

後援事業として

◇クラクフ「日本美術センター」建設基金コンサート 八月二十六日 田隈靖子ピアノリサイタル。

ポーランド語講習会 第十四期第十五期第十六期の三回各十週間開催

【一九九三年度会計】

〈収入の部〉

会費	六三三、〇〇〇円
その他	二〇五、三三四円
繰越金	四六六、八四三円
合計	一、二九五、一五七円

〈支出の部〉

事業費	一九五、七八三円
連絡費	五五、三〇七円
会合費	九六、四五四円
事務費	九四、七八七円
繰越金	八五二、八二六円
合計	一、二九五、一五七円

【一九九四年度事業計画】

主催事業として講演会、音楽会、展示会などを例会行事として4回程度開催。

ポーランド語講習会を年間三期程度実施。

その他に会誌POLEを年間四回発行予定。

ご挨拶

会長 谷本一之

このたび、はからずも北海道ポーランド文化協会の会長をお引き受けすることになりました。今村前会長のお考えを受け継ぎ、協会の発展にどう貢献できるのかを考えると、身の引き締まる思いがいたします。私にとつてポーランドは、輝ける知性の国として憧れの国でありました。映画狂の一青年であつた私に、戦後のポーランド映画が及ぼした影響は計り知れないものがあります。強靱な思想的バックボーンと前衛的な精神、さらにそれが政治的な活動に具体的に結び付く行動力、とりわけ自由への確固たる意志がポーランド人の歴史を支え、またそれが日本人にとつても重要な命題であることを、私はそのポーランドの映画から学んできたように思います。ポーランドの民族音楽を普遍的な音楽にまで、広島の犠牲を人類の生存にかかわる訴えにまで高めたシヨパンやベントレッキーの前衛的な知性もまた、私の感性と思想の拠り所になっています。

北海道ポーランド文化協会の活動が日本とポーランドの文化、学術、経済の、そしてなによりも人と人との交流の推進に役立つことを願いながら、協会の活動に対しての会員の皆様のご協力を心からお願いする次第です。



「一九九四年度予算」

〈収入の部〉

会費 六〇〇、〇〇〇円

その他 一〇、〇〇〇円

繰越金 八五二、八二六円

合計 一、四六二、八二六円

〈支出の部〉

事業費 三五〇、〇〇〇円

連絡費 六〇、〇〇〇円

会合費 一二〇、〇〇〇円

事務費 一〇〇、〇〇〇円

予備費 一〇、〇〇〇円

繰越金 八二二、八二六円

合計 一、四六二、八二六円

「一九九四年度役員」

会長：谷本一之

副会長：遠藤道子

顧問：今村成和

運営委員：安藤哲雄 安藤厚

市川恒樹 大竹貞 小林暁子

国田祐作 斎田道子 清水保子

霜田千代麿 高岡美保 中島洋

灰谷慶三 長谷川洋行 本間富雄

吉野悦雄 和田完 渡辺卓

監査委員：方波見雅夫 富山信夫

事務局長：吉田宏

ポーランドのクリスマスと 料理を楽しむ会

十二月十三日 女性センター料理
教室で「ポーランドのクリスマスと
料理を楽しむ会」が開かれました。
会場の一隅にはポーランドの子ど
もたちの作品―クリスマスにちなん
だ絵・人形・飾り―を展示しました。
折からの雪が見えるガラス窓を背景
にしたこの展示は、北国のクリスマ
スの雰囲気をもり上げるに十分の効
果を発揮しました。



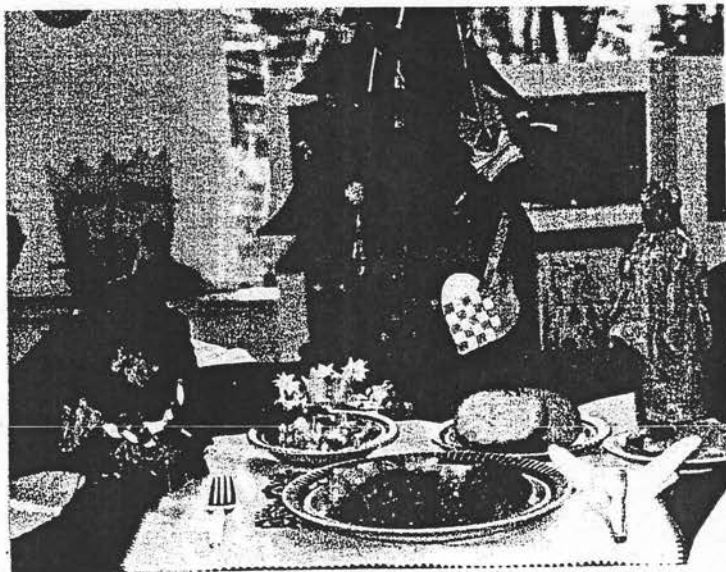
お料理講習はおなじみの熊倉ハリ
ーナさんを講師に、野菜サラダ、豚
肉ときのこのソース煮、それとハリ
ーナさんが自宅で作ってきて下さっ
たくるみ入りクッキー、紅茶、黒パ
ン、バゲットという献立を、約一時
間半ほどかけて、作り上げました。
出席者は申込み三十二名、出席者
二十七名、うち非会員十三名とい
う顔ぶれでした。

サラダはグリーンピースの緑、人
参、トマトの赤などが入って美しく、
いかにもクリスマス料理にふさわし
いものと好評でした。

試食のあと、クッキーと紅茶でデ
ザートにし、ハリーナさんからポー
ランドのクリスマスの過ごし方など
のお話をききました。会員ではない
方達にとってポーランドのお話は珍
しく興味深かったようです。

そのあと展示をみてまわり、飾り
が記念としてひとつずつプレゼント
されました。十時に始まり終わった
のは三時、なごやかな楽しい雰囲気
でした。ただ男性の参加者ゼロがと
ても残念でした。

お手伝い下さった会員その他の方
々、本当にありがとうございました。



1月28日例会終了後、懇親会を開きます。
会場、会費未定ですが、多数のご参加を
お待ちしております。

憧れの国を見てきました

ポーランド訪問団報告会

日時 1月28日(土)午後2時～5時
場所 北海道大学学術交流会館第2会議室
(北8西5、北大正門を入れて左側)

昨年9月、北海道ポーランド文化協会設立以来の懸案だったポーランド訪問が実現しました。北海道内外から13人が参加し、憧れの国に9日間滞在しました。ウッチでの交流会では地元の人々に歓待を受けたほか、様々な土地でポーランドの人々の生活、文化、歴史にふれました。大変楽しく有意義な旅だったので、「また行きたい」「今度はシヨパンコンクールにあわせて行こう」という声が出ています。報告会では、旅の体験を参加者自身がお話します。ポーランドやシヨパンに関心をお持ちの方、お気軽にお出で下さい。

- ◆各地で撮影したビデオ(約30分)
- ♣たくさんさんの写真やスライド、資料
- ♥参加者の感想・エピソード披露



◀聖マリア教会(クラクフ)

▶シヨパンの肖像

(ジェラゾヴァ・ヴォーラ)



自由に歩いたワルシャワの
シヨパンが生まれたジェ
ウッチの人々のあたた
信仰あつめる「心の

みやげ話がいっぱい



◀旧市街を散策(ワルシャワ)

アウシュヴィッツ(オシフィエンチム)の悲劇
山の緑と木の香り、ザコパネの豊かな自然
塩の町、ヴェリエリチカの地底を体験

グダニスク一人旅!(番外編)

POLE 第 29 号(1995.1.12)目次

第 8 回総会・懇親会(1994.11.29)報告	1
谷本一之(第二代会長)「ご挨拶」	2
〈第 22 回例会〉「ポーランドのクリスマスと料理を楽しむ会」(1994.12.3)報告	3
〈第 23 回例会〉「ポーランド訪問団報告会」(1995.1.28)のお知らせ	4